

生活科学専攻

コア・カリキュラム構成の設定と学習内容・行動目標

育成する人物像

家庭科に関する高い専門性を身に付け、縫う技術の高い家庭科教員

教育目標

家庭科に関する高い専門性を身に付けた中学校・高等学校の家庭科教員を育成する。特に被服実習を強化し、洋裁・和裁の高い技術力を養成し、専門高校にも対応できる家庭科教員の養成をおこなう。

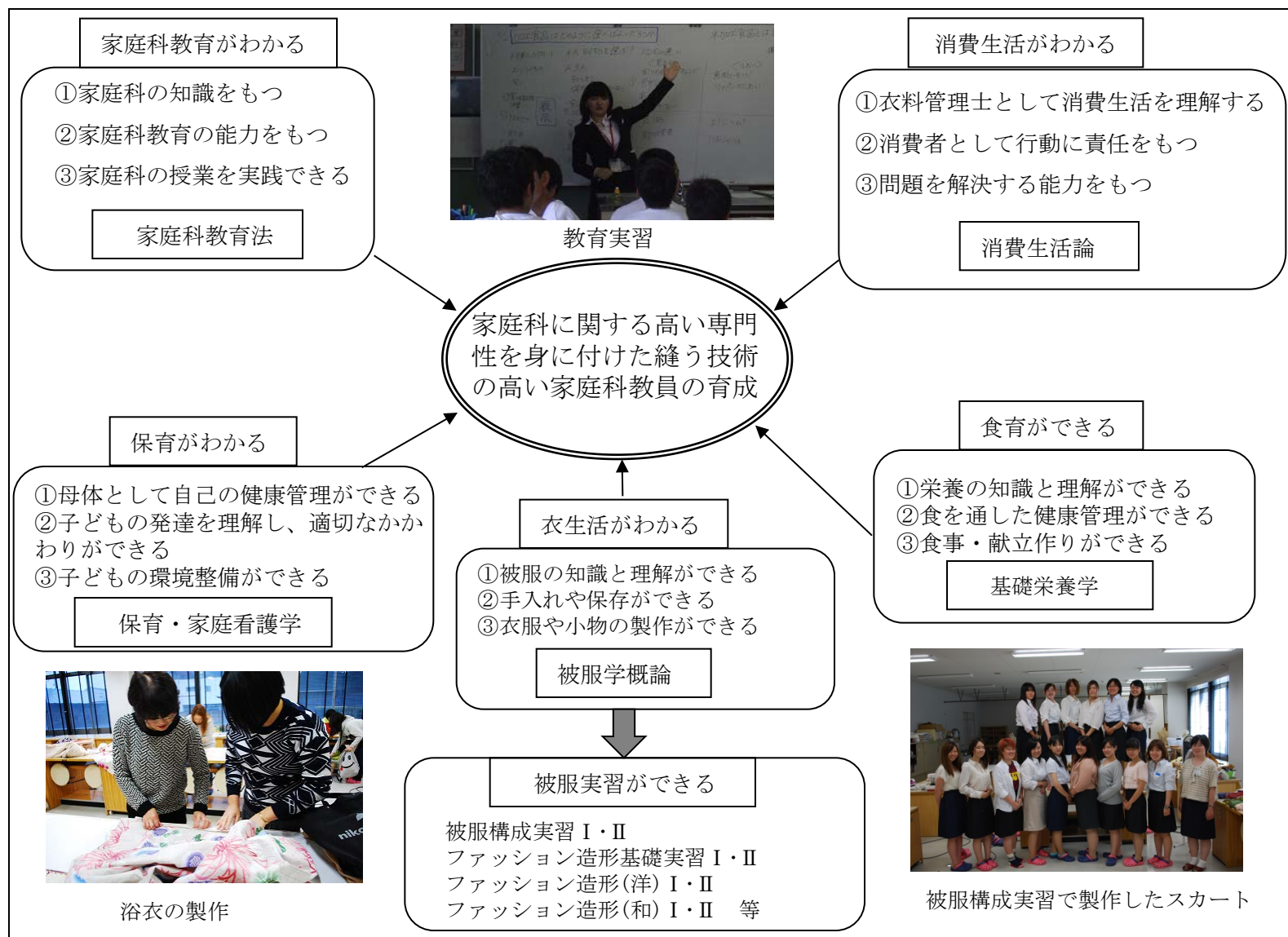
入学前課題

課題は、家庭科教員に関する内容を取り上げ、生活にかかわる教科の基礎力として国語の内容である文章読解・表現などを学び、衣・食・住・家族・保育・消費生活・環境に関する内容の知識、理解を深める。

コアカリキュラム

コア・カリキュラムには、専攻の教育目標を達成するための基礎となる科目を5つあげている。この科目を中心として「家庭科教育ができる」「衣生活がわかる」「食生活がわかる」「保育がわかる」「消費生活がわかる」家庭科教員をめざすために組まれている。また、衣生活では縫う技術力を高めるため被服実習の授業へとつなげていく。これらを通してさらに専攻の柱である①人としての品位の養成 ②基礎学力の育成 ③実践力の育成 ④学士力の育成をおこなう。

コア・カリキュラムとそれを構成する科目



コアカリキュラムと達成目標・評価

15コマの授業において内容と達成目標・評価の実例を示す。例 「家庭科教育法Ⅰ」
[達成目標]

- ・人の一生と家族・家庭、福祉、衣・食・住、消費生活などに関することが説明できる。
- ・衣、食、住、保育、消費、情報処理、看護・福祉の内容について説明ができ、それに伴う技術ができる。

[評価方法・指導]

- ・自己評価(受講前・後)をする。
- ・教員による評価(小テストなど)をする。
- ・習得度を把握し、個別指導を行う

学習内容評価の達成状況

家族・家庭、福祉・保育、衣・食・住、消費生活などの内容について学生に直接理解度を聞く。実際に各分野の指導案を書かせるので、内容の習得度が分かる。わからない場合は個別指導を実施している。指導案は3回以上作成すると書くことができるようになる。どのような内容なら授業が展開できるかも理解できるようになる。

めざすキャリア:中学校・高等学校家庭科教員